

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から3月31日
定時株主総会	毎年6月中
期末配当基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
お知らせ	単元未満株式(1~99株)をご所有の株主様へ 単元未満株式につきましては、買取請求制度を利用して整理していただくことができます。お手続きの詳細につきましては、上記株主名簿管理人連絡先までお問い合わせください。なお、証券保管振替制度をご利用されている株主様は、お取引口座のある証券会社へお申し出ください。

ホームページのご案内

➔ <http://www.taiyokoki.com/>



ネットワーク

Japan (国内)

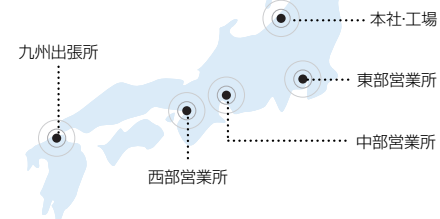
本社・工場
〒940-2045 新潟県長岡市西陵町221-35
TEL. 0258-42-8808(代) FAX. 0258-42-8810

東部営業所
〒135-0034 東京都江東区永代1-13-6 富吉ビル8階
TEL. 03-5621-4850 FAX. 03-5621-4851

中部営業所
〒451-0046 愛知県名古屋市中区牛島町2-5 TOMITA BLD. 701号
TEL. 052-563-1270 FAX. 052-563-1310

西部営業所
〒564-0052 大阪府吹田市広芝町4-1 江坂・美貴ビル8階
TEL. 06-6378-7166 FAX. 06-6378-7167

九州出張所
〒802-0081 福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階807号室
TEL. 093-512-5123 FAX. 093-512-5155



Overseas (海外)

太陽工機 タイ サービス
119/2 Moo 8, Bangnathani Building 1ST Floor A1,
Bangna-Trad KM.3 Road Kwaeng Bangna, Khet Bangna,
Bangkok 10260, Thailand
TEL. +66-2-361-3730-5 FAX. +66-2-361-3706



● ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

太陽工機は1986年に創業して以来、研削加工技術の分野に特化した独自の開発力により市場ニーズの開拓に努めてまいりました。特に従来の発想を超えて開発した「立形研削盤」は確かな精度・剛性を備え、省スペース・フレキシビリティ・オートメーション化など様々なメリットを備えるとともに、量産部品対応の小型機から多品種少量向けの大型機まで多くの機種を用意し、国内のお客様はもとより、海外のお客様からも高い評価を頂いています。これらの開発力をベースとして、複合化、小型化をはかり、円筒研削盤、内面研削盤など多彩なニーズに対応しております。今後も当社は、独自の開発力を磨きながら研削盤の総合専門メーカーを目指し、よりグローバルな市場ニーズを満たしていくために邁進し続けます。

代表取締役社長

渡辺 登

● 企業理念

philosophy

私たちは、
先進的技術を駆使した製品を創造し、
精密加工を通して
世界の製造業の発展に貢献する

1. 内外の法令を遵守し、フェアな企業活動に徹する

2. イノベーションを追求し、最先端の技術力と提案力で社会に貢献する

3. 企業価値を高め、顧客、従業員、株主、その他のステークホルダーに報いる

● トップインタビュー



独自の研削技術で、
お客様の未来をサポートいたします。

Q 上場に当たっての投資家の皆様へのメッセージをお聞かせください。

A 企業の業績向上を通じて、株主・投資家の皆様への利益還元を果たしてまいります。

2007年12月19日に、当社はジャスダック証券取引所に上場を致しました。

これもひとえに皆様のあたたかいご支援の賜物と、ここに改めて深く感謝を申し上げます。

当社は、1986年の創業以来、自動車部品・各種産業機械部品等の研削加工に携わり、お客様のご要望を製品の開発・設計に活かしながら、市場ニーズの開拓に努めてまいりました。

幸いにも当期の業績につきましてもほぼ目標を達成できることとなりました。今後も当社の業績を向上させ、配当等を実施することにより株主・投資家の皆様に利益還元を果たしてまいります。

株主並びに投資家の皆様には、これからも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Q 貴社の企業理念及び経営方針についてお聞かせください。

A 私たちは、先進的技術を駆使した製品を創造し、精密加工を通して世界の製造業の発展に貢献します。

私たちは、具体的には以下の3点を経営方針として掲げ、これからの事業活動の礎としてまいります。

1. 内外の法令を遵守し、フェアな企業活動に徹する
上場を果たしました今後は、さらにディスクロージャーを含めましてフェアで開かれた企業活動に徹してまいります。

2. イノベーションを追求し、最先端の技術力と提案力で社会に貢献する

当社の強みは、その技術力と顧客ニーズに適應した提案力であると考えております。今後も私たちの企業活動の原点である技術力及び提案力で社会に貢献してまいります。

3. 企業価値を高め、顧客、従業員、株主、その他のステークホルダーに報いる

企業業績を向上させ、企業価値を高めることで顧客、従業員、株主、その他のステークホルダーの皆様へ報いるよう努力してまいります。

Q 貴社の事業内容、市場の特徴及び業界内でのポジショニングについてお聞かせください。

A 当社は、自動車部品や産業機械部品等の製造過程における仕上加工（研削加工）を行う研削盤の製造・販売を主たる業務とし、確かな技術力に裏付けされた提案力に優位性を打ち出しております。

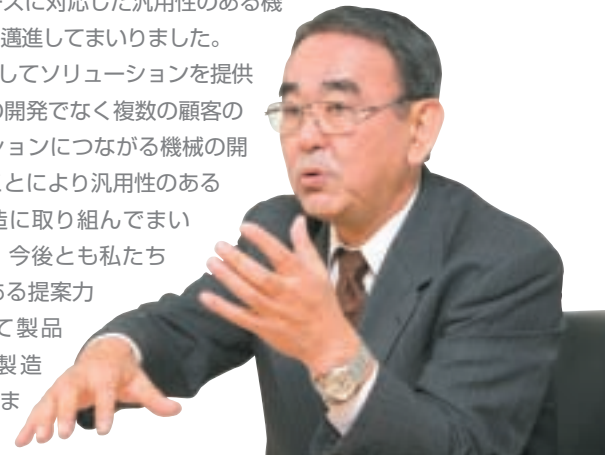
私たちの担当する分野は、仕上り加工を行う研削盤の製造及び販売であり、非常に高い精度が要求される分野であります。市場規模としてはそれほど大きなものではないため、これまで研削盤の市場においてビッグ・カンパニーというものは存在せず、外径加工、内径加工等それぞれの分野で強いメーカーが存在しました。また、研削盤は、非常に高い精度が要求される機械であることから大量生産に向かないという特徴も持ち合わせています。つまり、ビッグ・カンパニーが存在しづらい環境にあるということが言えると思います。そのような市場においては、当社のように規模自体は大きくないものの技術力を持った企業が羽ばたける場があるものと捉えております。

また、競争が少ないことから技術革新が遅れている市場であるということも言えると思います。そういう特徴のある市場において私たちは、たとえば外径及び内径の研削を一貫して行うことができる機械の投入等、顧客からのニーズに真っ向から取り組むことによって業績を伸ばしてまいりました。当期の決算においては、研削盤の専門メーカーの中で上位3社の中にはいつまでも成長しました。今後は、研削盤専門メーカーのトップ企業を目指してまいります。

私たちは、立形研削盤を最初に開発・販売することにより伸びてきた企業であります。日本の市場においては太

陽工機の立形研削盤はある程度のブランドを持つようになり、マーケットシェアをみても約90%とNo.1の地位を確立しております。しかし、世界の市場において、太陽工機のブランドが浸透しているとはまだまだ言えません。今後は、世界市場においても「立形研削盤といえば太陽工機」というブランドを確立していくべく活動してまいります。海外市場においても固定顧客はできつつあり、私たちの技術力を認めて頂いている証拠であると考えております。しかし、まだまだ海外営業力が不足している点は否めません。今後は、海外営業力を強化し、海外売上比率を全体の3分の1くらいまで引き上げていくことを目指してまいります。大量生産に向かず、ビッグ・カンパニーが参入しづらい市場であるため、規模は小さくとも技術力を有する私たちのような企業にもそのチャンスはあるものと確信しております。私たちのもう1つの強みは提案力であります。顧客のニーズを正確に汲み取り、そのニーズに真っ向から取り組むことによって生まれたものが例えば立形研削盤であります。色々な顧客からの情報を収集することによって、それぞれの顧客ニーズに対応した汎用性のある機械の開発に邁進してまいりました。

1顧客に対してソリューションを提供する機械の開発でなく複数の顧客のソリューションにつながる機械の開発を行うことにより汎用性のある機械の製造に取り組んでまいりました。今後とも私たちの強みである提案力を生かして製品の開発・製造を行ってまいります。



Q 当期の業績についてお聞かせください。

A 当期の業績は、ほぼ計画通りに推移し、売上高は対前期比18.4%増の6,471百万円、営業利益は対前期比32.6%増の792百万円となりました。

主力の立形研削盤は、建設機械、軸受等の産業機械市場向けの中・大型機の受注が好調に推移しました。横形研削盤、その他専用研削盤については、前年度に自動車市場向け受注が調整局面にあったことから売上は落ち込みました。しかし、受注については、自動車市場向けの需要も回復したことから増加に転じております。

以上の結果、売上高は6,471百万円(対前期比18.4%増)と計画を若干上回る結果となりました。

営業利益については、上場関連費用が予想を上回ったことから、792百万円(対前期比32.6%増)と計画を下回る結果となりましたが、業績はほぼ計画通りに推移しました。今後エネルギー、自動車等の各業界に大きな変化が起こることが予想されます。そのような変化を正確にとらえ、ビジネスチャンスに柔軟に対応することにより、収益の増加を図ってまいります。

Q 貴社が描く成長へのシナリオと今後の課題についてお聞かせください。

A 私たちは、研削盤市場シェアNo.1、業界最高水準の収益性確保を中期ビジョンとして掲げ、顧客価値提供の最強企業を目指します。

私たちは、中期ビジョン達成に向けた具体的な施策として、以下のものを掲げております。

・**地域戦略**—海外売上比率30%を目指してまいります。現状、当社の海外売上比率は約10%であります。業界最高水準の収益性の確保のためにも国内依存度を下げ、特に米国市場の開拓を進めてまいります。研削盤メーカーの間では、立形研削盤メーカーとしてある程度の知名度はありますが、ユーザーの皆様にも浸透しているとは言えません。

太陽工機の世界市場における知名度の向上のためには、営業力が欠かせません。そのために、海外営業の経験者等の人的資源の確保を喫緊の課題として取り組んでいるところであります。

・**顧客戦略**—環境技術及びインフラ対応等の産業機械分野の深耕を進め、ミッション系部品等の自動車の高付加価値分野に焦点を当てた営業活動を行ってまいります。

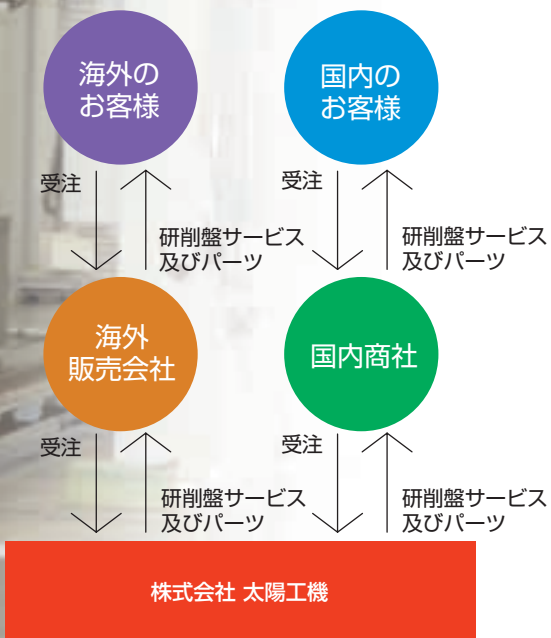
・**効率重視**—設計、部品、生産の標準化を目指しサプライチェーンマネジメントの見直しを図ってまいります。

・**能力拡大**—大型機の需要拡大に対応するため、新工場の建設に取り組んでまいります。

また、現状を鑑みますと、当社はスリムアップできる余地がまだまだあると考えております。今後は、原価管理の専門チームを編成し、「攻めの原価管理」を徹底してまいります。日本版SOX法の施行に伴う内部統制の整備を進めながら、同時に原価管理についても改めて整備し、高水準の収益性の確保の礎としてまいります。

私たちの掲げる中期ビジョンの達成のためには、人材の育成が不可欠であります。人材の熟練度を上げることにより、作業工程の短縮につながり、コストの削減にも寄与するものと考えております。当社は、まだその途中段階にありますが、株主・投資家の皆様のご期待にお応えできるよう熟練した企業となるため、弛まぬ努力をしておりますので、今後ともご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

日本メーカーの製品高精度化・競争力強化に寄与
グローバルマーケットへの優位性に貢献



● 事業の概要

自らの製品技術を研鑽により更新し、
世界の工業社会に向けて
積極的に技術革新を提案してまいります。

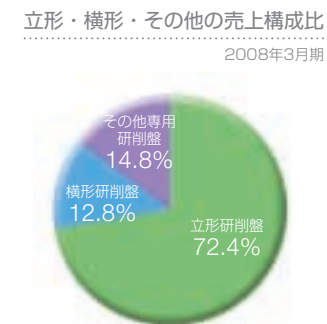
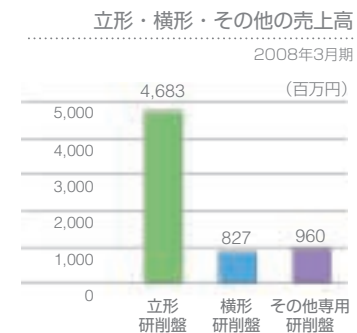
立形研削盤

立形研削盤は、当社の独自の技術において開発した垂直方向からワークピースを削る研削盤であり、重力の影響を受けることなく部品の内面・外径を効率的に加工することが可能であります。さらに、立形研削盤は、工場内での省スペース化を実現いたします。この立形研削盤には、内面研削盤IGVシリーズや外径研削盤EGVシリーズを基本として、平成17年10月に標準機種であるNVGシリーズ、平成19年3月には小型標準機種であるSVGシリーズを揃えております。

CNC立形研削盤

- ・ SVG
- ・ NVG
- ・ IGV
- ・ EGV
- ・ VMG

NVG SVG



横形研削盤

横形研削盤は、他社が主力製品とし、一般に広く利用されている研削盤であります。主としてスピンドル^(注1)の内外径・端面・テーパ加工^(注2)を効率的に研削することが可能であります。この横形研削盤には、IGTシリーズ、CGNシリーズ、MGSシリーズと用途に応じた製品群を揃えております。

(注1) 工作機械部品の一種で回転運動を与える軸。
(注2) 加工対象物を研削等によってテーパ形状(テーパとは円錐形状のことで、機械部品には多くのテーパ形状を利用します。)にする加工。

CNC内面研削盤

- ・ IGH
- ・ IGT
- ・ IGS

CNC円筒研削盤

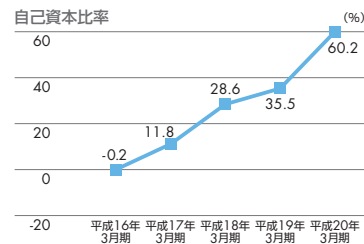
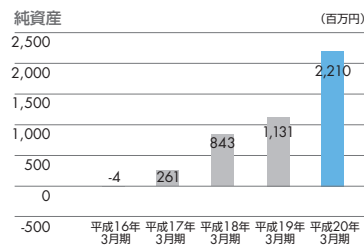
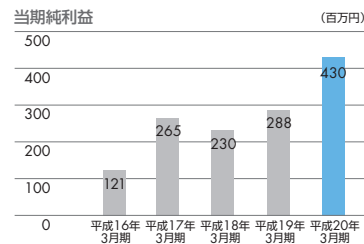
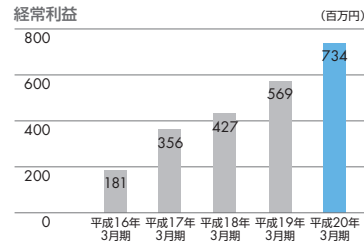
- ・ CGN
- ・ MGS

その他専用研削盤

その他専用研削盤は、特定ユーザーからの多様なオーダーに対応していく機種であり、その用途や特徴は多岐にわたっております。



● 財務ハイライト



● 財務諸表(要約)

貸借対照表(要約)

(単位：千円)

	当 期 (平成20年3月31日)	前 期 (平成19年3月31日)
[資産の部]		
流動資産	3,100,162	2,613,781
固定資産	572,830	571,355
有形固定資産	522,806	541,524
無形固定資産	17,165	6,579
投資その他の資産	32,859	23,250
資産合計	3,672,993	3,185,136
[負債の部]		
流動負債	1,462,426	2,053,276
負債合計	1,462,426	2,053,276
[純資産の部]		
株主資本	2,210,566	1,131,859
資本金	700,328	376,000
資本剰余金	637,828	313,500
利益剰余金	872,410	442,359
純資産合計	2,210,566	1,131,859
負債純資産合計	3,672,993	3,185,136

■ 流動資産

売掛金が607,043千円増加、現金及び預金が1,12,514千円、棚卸資産が44,876千円減少したことによるものです。

■ 固定資産

ソフトウェアが10,585千円、長期前払費用が9,454千円増加したこと、有形固定資産が18,718千円減少したことによるものです。

■ 流動負債

短期借入金が804,000千円減少したこと、未払法人税等が98,117千円、製品保証引当金が42,655千円、買掛金が39,400千円、未払金が37,560千円増加したことによるものです。

■ 純資産

新株式の発行を行ったことにより、資本金が324,328千円、資本準備金が324,328千円それぞれ増加したこと、及び利益剰余金が430,050千円増加したことによるものです。

損益計算書(要約)

(単位：千円)

	当 期 (自 平成19年4月 1日 至 平成20年3月31日)	前 期 (自 平成18年4月 1日 至 平成19年3月31日)
売上高	6,471,418	5,465,390
売上原価	4,834,534	4,114,276
売上総利益	1,636,884	1,351,113
販売費及び一般管理費	844,499	753,489
営業利益	792,384	597,623
経常利益	734,566	569,949
税引前当期純利益	732,086	510,358
当期純利益	430,050	288,059

従来主体としていた工作機械、自動車関連業種に加え、建設機械、金属製品製造、エネルギー関連等の業種へ、当社主力製品である立形研削盤NVGシリーズ等を積極的に展開し、売上高は6,471,418千円(前期比18.4%増)、営業利益は792,384千円(前期比32.6%増)、経常利益は734,566千円(前期比28.9%増)、当期純利益は430,050千円(前期比49.3%)となりました。

キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：千円)

	当 期 (自 平成19年4月 1日 至 平成20年3月31日)	前 期 (自 平成18年4月 1日 至 平成19年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	92,670	14,354
投資活動によるキャッシュ・フロー	△94,883	△42,015
財務活動によるキャッシュ・フロー	△178,301	△28,000
現金及び現金同等物の増減額	△180,514	△55,661
現金及び現金同等物の期首残高	480,351	536,012
現金及び現金同等物の期末残高	299,836	480,351

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税引前当期純利益732,086千円の計上、減価償却費48,373千円、製品保証引当金の増加42,655千円、棚卸資産の減少43,658千円及び仕入債務の増加39,400千円による資金増加要因と、売上債権の増加607,043千円、法人税等の支払266,630千円の資金減少要因によるものです。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

定期積金の増加68,000千円、有形固定資産の取得19,944千円によるものです。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

借入金の返済804,000千円による資金減少要因と、株式の発行による収入643,548千円の資金増加要因によるものです。

株主資本等変動計算書(自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	
平成19年3月31日残高	376,000	313,500	442,359	1,131,859
事業年度中の変動額				
新株の発行	324,328	324,328		648,656
当期純利益			430,050	430,050
事業年度中の変動額合計	324,328	324,328	430,050	1,078,707
平成20年3月31日残高	700,328	637,828	872,410	2,210,566

沿革

1988年5月

株式会社太陽工機
(資本金5,000千円)に
組織変更

10月

新潟県長岡市南陽に
本社工場完成、
工作機械事業を
本格的に開始

1986年3月

工作機械の設計、製作を
目的に有限会社太陽工機
創業

2007年3月

小型立形研削盤
SVGシリーズ(標準機)を
開発し、製造販売を開始

12月

ジャスダック証券取引所に
上場

1989年10月

立形研削盤(専用機)
を開発

1990年10月

立形研削盤(汎用機)
を開発し、
シリーズ化して
製造販売を開始

1994年3月

株式会社池貝が
資本参加
(持株比率64.0%)し
株式会社池貝の
連結子会社となる

1997年2月

本社工場に組立工場を
増設し、生産拠点の
一元化を達成

1998年10月

名古屋市中区に
名古屋営業所開設

2000年10月

大阪府吹田市に
大阪営業所開設

2001年5月

株式会社森精機製作所が
資本参加
(当初持株比率40.0%)し、
株式会社森精機製作所の
連結子会社となる

2003年7月

東京都江東区に
東京営業所を開設

2006年1月

北九州市小倉北区に
九州営業所を開設

2005年6月

本社工場を新潟県長岡市
雲出工業団地に新設

10月

立形研削盤NVGシリーズ
(標準機)を開発し、
製造販売を開始

2004年6月

タイのバンコクに
駐在員事務所を開設

THE HISTORY OF TAIYO KOKI

会社概要

(平成20年3月31日現在)

商号	株式会社 太陽工機
設立年月日	昭和61年3月
本社所在地	新潟県長岡市西陵町221番35
代表者	代表取締役 渡辺 登
事業内容	研削盤の製造、販売
売上高	6,471百万円(平成20年3月期実績)
経常利益	734百万円(平成20年3月期実績)
総資産額	3,672百万円(平成20年3月期実績)
従業員数	173名

取締役および監査役

代表取締役社長	渡辺 登
常務取締役	小林 秋男
取締役	福島 清之
取締役	大野 和彦
取締役	幸田 敏夫
取締役	棚橋 基裕
取締役	森 雅彦
取締役	間瀬 宏
常勤監査役	佐藤 剛
監査役	大野 義彰
監査役	平塚 誠毅

株式情報

(平成20年3月31日現在)

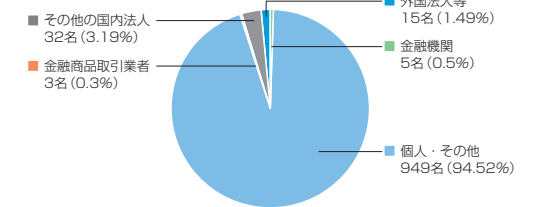
株式の状況

発行可能株式総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,978,200株
株主数	1,004名

大株主

株主名	持株数	出資比率(%)
株式会社森精機製作所	1,494,000	50.16
渡辺登	300,000	10.07
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	239,600	8.04
太陽工機従業員持株会	130,800	4.39
株式会社井高	108,000	3.62
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	60,200	2.02
株式会社第四銀行	40,000	1.34
株式会社三井住友銀行	40,000	1.34
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー505025	32,500	1.09
平野澄子	25,000	0.83

所有者別



所有株式数別

